

福島 の積算線量

測定取りやめへ

重要な目安失う恐れ

文部科学省は14日、東京電力福島第一原発の事故後、福島県内の9カ所で続けてきた積算線量の測定を終了すると発表した。同日行った測定結果を15日に公表した後は線量計も取り外すという。事故後からの継続的な記録で、線量の重要な目安のひとつがなくなることになる。

終了の理由について、測

定地点を増やし機器の自動化が進み、ウェブ上で積算線量が確認できるようになったためと説明している。

しかし、今年4月以降の記録しか示されておらず、測定器や測定場所も異なる。

文科省は、事故後の昨年3月23日以降、警戒区域外の9カ所に簡易型線量計を置いて、屋外に24時間滞在

したと仮定した場合の積算

線量を測定してきた。

最も高い浪江町赤宇木地区(第一原発から北西31キロ)では、今月8日現在で137・63ミリシーベルトを

示した。昨年12月、がんのリスクが高まるレベルの100ミリシーベルトを超え、住民にとっては重要な目安となっていた。(石塚広志)